

## 第4章 大正デモクラシーと政党政治

滋賀県立大津高等学校 北川和樹

### 1 単元を貫く問い

・大正期に国民と政党政治はどのように関わり合い、相互に影響し合ったのだろうか。

### 2 育成したい資質・能力

・大正期の政党政治と国民の政治参加について、諸資料を活用しながら意義や関係性について考察し、表現する力を養う。

### 3 単元の流れ

【第1次】大正政変（1時間）

・第2次西園寺内閣の総辞職

→2個師団増設問題の内容について確認する。

・第1次護憲運動の展開

史料「尾崎行雄の弾劾演説」（市販史料集）

【発問】「尾崎行雄はどのようなことを主張したか？」

\*史料の内容を読み取り、要約する。

\*第1次護憲運動の結果について確認する。

・第1次山本内閣・大隈内閣

→第1次山本内閣の特徴について確認する。

資料「シーメンス事件の風刺画」（市販資料集）

【第2次】民衆運動の高揚と政党内閣の発展（1時間）

・民本主義

史料「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」（史料集より）

【発問】「民本主義」とは、どのような考えか？」

\*史料の内容を読み取り、民主主義との違いについてまとめる。

・米騒動

→米騒動の原因と展開についてまとめる。

\*滋賀県における米騒動の影響を確認する。

史料「米価対策の告諭」（滋賀県立公文書館HP）

・原内閣の特徴

→「初の政党内閣」と「初の本格的政党内閣」の違いを確認する。

【第3次】【本時】大正期の政治と江若鉄道（1時間）

・江若鉄道について

【発問】「なぜ、大正期に江若鉄道が設立・開通したの

だろうか？」

【第4次】護憲三派内閣の成立（1時間）

・関東大震災の影響 史料「総務部日誌」（p.148）

・第2次護憲運動の展開

・護憲三派内閣の成立

【発問】「なぜ、治安維持法が制定されたのだろうか？」

\*日ソ基本条約、治安維持法、普通選挙法の内容を確認し、治安維持法制定の意義をまとめる。

### 4 本時（3/4時間目）

主題 大正期の政治と江若鉄道

《本時の目的》

・滋賀県における大正期の政党政治について、諸資料を活用して多角的に考察し、表現することができる。

\*歴史公文書、新聞記事などの資料を活用し、根拠をもって問いに対する仮説を立て、文章で表現することをねらいとする。

【導入】江若鉄道について知る。

・江若鉄道の歴史や概要について確認する。



写真9 江若鉄道（白鬚駅）  
昭和44年 個人蔵

【展開1】江若鉄道が設立・開通した理由を考察する。

\*「鉄道が無く不便だったから」といった単純な答えが想定されるが、その他にもさまざまな政治的背景・理由があったことを伝える。

・年表や史料をもとに、（個人・ペア・グループで）仮説を立て、まとめる。

《利用史料》

・「江若鉄道免許状」（写真10）

・『立憲政友会滋賀県支部党誌』（国立国会図書館蔵）

・「第14回総選挙の当選者を報じる新聞記事」

(『図説 大津の歴史』下巻)

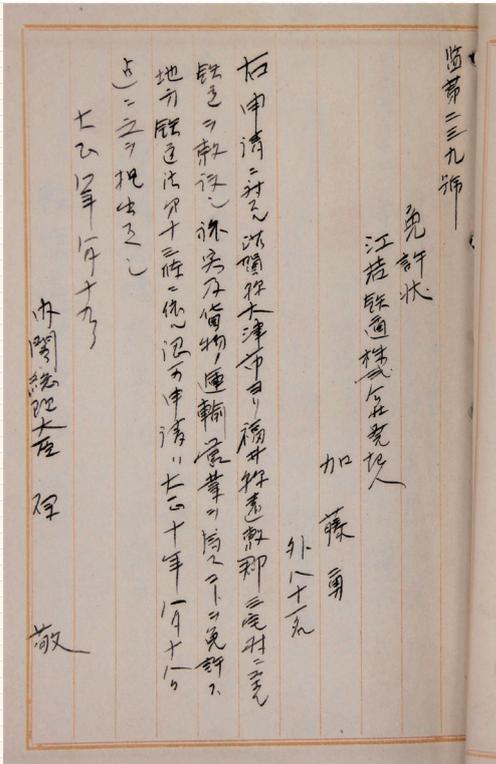


写真10 江若鉄道免許状 大正8年8月19日  
デジタル展示「湖西を開く—江若鉄道—」【大と8(1)】

【釈文】 免許状

江若鉄道株式会社發起人 加藤勇 外八十一名  
右申請ニ対スル滋賀県大津市ヨリ福井県遠敷郡三宅村ニ至ル鉄道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸營業ヲ為スコトヲ免許ス、地方鉄道法第十三条ニ依ル認可申請ハ大正十年八月十八日迄ニ之ヲ提出スヘシ  
大正八年八月十九日 内閣総理大臣 原敬

【年表】 大正期の政治

○=県政の動き ●=国政の動き

1913(大2).2	○県会議長の井上敬之助が立憲政友会滋賀県支部長に就任
1917(大6).12	○鉄道敷設に積極的な政友会派の森正隆が滋賀県知事に就任
1918(大7).9	●原敬が首相に就任
1918(大7).10	○高島郡選出の県議会議員・安原仁兵衛を委員長として、湖西鉄道期成同盟会が結成
1919(大8).8	○江若鉄道の敷設免許状が下付される → <a href="#">写真10</a>
1920(大9).2	●原敬首相が議会を解散
1920(大9).5	●小選挙区制のもとで第14回衆議院議員総選挙が行われる
1921(大10).3	○江若鉄道三井寺下一叡山間が開業
1921(大10).11	●原敬首相が暗殺される
1923(大12).9	○滋賀県議会選挙で立憲政友会が圧倒的多数の議席を獲得

【図説 大津の歴史 下巻】、『歴史公文書が語る湖国』、『立憲政友会滋賀県支部党誌』より作成

\*史料の読み取りにおいては、以下の点に着目させる。

- ①免許状下付時の総理大臣が原敬であったこと。
- ②立憲政友会が県内の有力者を積極的に入党させていたこと。
- ③政友会派の知事や県議員が、江若鉄道の敷設に積極的であったこと。
- ④立憲政友会が党勢拡大のため、土木・教育・鉄道などの積極政策を推進していたこと。

・仮説を検証する。

→滋賀県以外にも同様の事例がないか、タブレット端末やスマートフォン等を活用して調べる。

\*インターネットによる検索が難しい場合には、資料集を参照させる。

【展開2】 問いに対する答えを、文章でまとめる。

・個人でまとめた後、ペア・グループごとに解答を確認する。

【まとめ】 立憲政友会が党勢を拡大して支持を獲得するために、滋賀県においても積極政策を行い、その一環として江若鉄道の敷設が推進されたことを確認する。